

「北軽井沢のカラマツ(3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

(5) ススキとカラマツの高原

北軽井沢にはススキも多い。東京のススキはまだ花が咲いているが、高原のものはすっかり枯れたようだ。



写真はススキの穂越しに見た、カラマツの丘である。この山は「浅間牧場」の裏手の丘で、山全体がカラマツに覆われている。この丘には車では行けないが、自転車で上れる細い道がある。私は久しぶりに自転車を出して、上ってみることにした。



丘の林床は、カラマツの落ち葉で敷きつめられていた。考えてみれば、カラマツは不思議な樹木だ。針葉樹なのに落葉する。モミの樹のような枝のしなやかさがなく、葉を残して雪が積もると、簡単に折れてしまうのだ。ほとんどすべての針葉樹が「常緑」という生活を選んだのに、なぜカラマツだけが「落葉」という生活を選んだのか、まったく不思議でならない。

(6) 金色の雪が降る

カラマツは当然ながら、広葉樹に比べて、葉の総数が非常に多い。樹木そのものの本数も、大変なものだろう。そのカラマツすべてが、10月下旬から11月上旬にかけて、一斉に葉を落とす。特に晴れた日の午前中は、少しでも風が吹くと、パラパラと散ってくる。



これはまるで「金色の雪」が降ってくるようだ。私はあの美しさを写真に撮ろうと何度も挑戦したが、一本一本の葉があまりにも細く、しかも落下しているので、ほとんど写らない。



どのぐらいの葉が落ちてくるのか、簡単な「実験」もしてみた。私の山荘のテラスの真上には、大きなカラマツの樹がある。一旦、テラスを掃き掃除をしたあと、落ち葉が散るのを待ってみた。こんなに小さな針のような葉なのに、着地する時には「カサカサ・・・」とかすかな音がする。写真は5分後の様子である。この狭い範囲に1000本以上落ちているだろう。

毎年晩秋の北軽井沢で見られる「金色の雪」。高原全体では一体何トンの落ち葉が積もるのだろうか？ ちょっと計算してみたいと思った。